

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>ホームページは概要のほか多様な内容にて園を紹介している</p> <p>ホームページは園の概要等を表示するとともに保護者からの声、入園の流れ、職員の紹介など多様な内容となっている。特に園長あいさつ、保育への思いについては、「目先の成長だけにとらわれず、子どもたちの成長するための力や生きていく力、困難を克服する活力(勇氣)を持った子に育てほしい」という目指す・推進している保育が紹介されている。</p> <p>区ホームページにも本園概要と園サイトへのリンクが掲載されている</p> <p>区内小規模保育所の一覧が区のホームページに掲載されており、概要とともに本園ホームページへのリンクが貼られている。定員など園の概要が記されており、多くの方が目にする事ができる環境となっている。東京福祉ナビゲーションをはじめ、各種情報掲載サイトからも貴重な情報を得ることができる。また、園のパンフレットは保育への思いを中心に理念・方針を理解することができる内容となっている。</p> <p>見学会を通じて園への理解が深まるよう努めている</p> <p>入園の問い合わせには随時対応しており、年に3回の定期開催に加え、必要に応じ複数回の見学会が実施されている。園の方針や保育の特長を理解してもらうため、ドキュメンテーションを作成しており、積極的な戸外活動、丁寧な見守りなどが紹介されている。入園希望者からの持ち物、保育時間などの質問についても応答し、理解を深めてもらえるよう努めている。また、子育て情報誌の保活特集についても取材協力がなされている。</p>		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p>しおりを使用し、留意事項、感染症対応などを説明している</p> <p>入園・進級時には、「しおり」を使用し、保育理念・方針をはじめ重要事項、デイリー、登降園時の連絡、個人情報の取り扱い等留意事項を説明している。特に感染症対応については丁寧に説明しており、登園停止期間など注意喚起と協力の依頼がなされている。保育に伴って起きる事項についても説明し、始まる園での生活が「親子にとって楽しいものとなるよう」「理解を深めてもらえるよう」取り組んでいる。</p> <p>徐々に新しい生活に慣れていけるよう取り組んでいる</p> <p>入園時には、家庭での様子、健康状態、保護者の就労状況などを書類提出等を通して確認し、各家庭に応じた保育の実践に努めている。慣らし保育については育児休業制度の拡充などにより余裕をもって実施されており、月齢、就労状況などを考慮して行われている。保護者の心配やあせりなど相談に応じながら徐々に新しい生活に慣れていけるよう取り組んでいる。</p> <p>子ども、保護者との信頼関係を基盤に保育を進めていくことを方針としている</p> <p>子ども、保護者との信頼関係を基盤に保育を推進することを理念としており、安心を与えられるよう努めている。特に保護者の心配事項については声に出して相談できるよう雰囲気作りや声掛けに取り組んでいる。2歳児までの保育であることから人格形成の基礎を築くことを主体に自己肯定感・生きる力を育てることを方針に保育を進めている。退園後も卒園児やその保護者が来園し相談などに応じるなどもなされている。</p>		

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	13/13
3 個別状況の記録と計画策定			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>領域ごとに考察された児童票からは園の丁寧な保育を理解することができる</p> <p>入園時から収集された子どもたち一人ひとりの情報をまとめたファイルが作成されており、アップデートと確認を繰り返しながら保育が進められている。児童票についてもチェック式のもので領域ごとの考察の双方がなされており、園の丁寧な保育をあらわしている。また、保護者にも連絡帳に加えたファイルが渡されており、各種確認をしながら連携を図っている。</p> <p>各種計画を連動させ、計画性ある保育を推進している</p> <p>全体的な計画、年・月・週の指導計画が立案されており、管理層の指導のもと修正し、掲げる保育推進の幹としている。また、各計画はばらばらに存在しているのではなく、それぞれが連動し、思い付きではない計画性をもった援助ができるよう取り組んでいる。雨天時についてもあらかじめ想定し、多様な引き出しをもって活動と環境を提供できるよう努めている。</p> <p>ミーティング・記録を通して情報の共有に取り組んでいる</p> <p>毎週、職員ミーティングを開催しており、子どもたちの状況や変化の共有にあたっている。また、児童票、連絡帳などの作成にあたってはその表現方法についても適切・正確となるよう指導にあたっている。連絡帳は手書きによるあたたかな形式が継続されており、子どもたちの成長を振り返る貴重な記録としても存在している。</p>			

		サブカテゴリ-5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報の利用について書面での説明と同意書の提出をもって了承を得ている プライバシーポリシーを設置しており、ホームページにて公開している。個人情報の収集方法、利用目的、第三者提供、開示請求への対応等を定めている。また、入園時には、園内での掲示や表示をはじめ情報誌への写真の提供などについて取り扱いに関し、紙面での説明と同意書の提出をもって了承を得ている。</p> <p>カーテン・シートを設置するなど羞恥心に配慮し、水遊びなどがなされている 水遊びの活動時には、カーテン・シートを設置するなど外部からの視線に対する子どもたちの羞恥心に配慮するよう努めている。保健衛生指導とともに自身を守るための方策について年齢に応じた対応を伝えていくよう努めている。水遊びについては昨今の酷暑に対応し、ガイドライン等を参考に数値等を確認し、子ども・職員の安全対策をしながら進められている。</p> <p>各家庭がもつ習慣を考慮しながら援助にあたっている 外国籍の子どもも在園しており、各家庭がもつ習慣を考慮しながら援助にあたっている。特に食習慣については、子どもたちの成長に大きな影響を与えるため、園の給食提供を通じて徐々に日本食に慣れていき、適切な栄養を摂取できるよう援助に取り組んでいる。子育てに対する不安を気軽に相談できる雰囲気をつくり、家庭と協働して保育を進めていけるよう努めている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇●)	
評価	標準項目		
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
ガイドラインの導入など各種マニュアルを整備し、標準化を進めている 事故防止、感染症対応、給食提供、食物アレルギー対応、離乳食提供、戸外活動、発達等々の各種マニュアルが整備されている。行政などのガイドラインを収集し、園独自の見解や子どもたちの状況を加え、業務の標準化に取り組んでいる。マニュアルを基盤として適切な保育が行われるよう日々の保育を通じて指導にあたっている。			
書式を整備し、記録の確認と保守がなされている 児童票、連絡帳、指導計画、保護者個人面談の記録、事故報告書、など管理層の経験や方針をもとに書式を整備し、記録の確認と保守がなされている。各種記録様式からは基本をしっかりとす、職員・子どもともにマイナス要素ではなく、プラス事項に目を向けることへの意識が理解できる。			
家庭的な保育の実践には、確かな理論と経験に基づく方針が構築されている 毎週職員ミーティングを実施し、子どもたちの変化や状況の共有がなされている。また情報共有だけでなく、保育方針や認識の統一にもつなげており、各種計画をもとに運営が進められるよう取り組んでいる。先を見通す、計画性を持つ、否定しない環境をつくるなど家庭的な保育の実践には、確かな理論と経験に基づく方針が構築されている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(00000)・非該当1	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	<input checked="" type="radio"/> 非該当	
評価項目1の講評			
<p>主体的保育の推進については開設以来主眼として取り組んでいる 本質やプロセスを大切にす方針のもと、目の前の結果だけではなく根っこの部分を考察する保育を標ぼうしている。主体的保育の推進については開設以来主眼として取り組んでいる事項であり、これまで積み重ねた実績を継続している。子どもたちの意欲を枠組みの中でいかに発揮させていくか、集団の中でリカバリーをしていく力をどのように身に着けていくかなど社会性を育むことについて注力している。</p> <p>習慣の違いに配慮し、必要な援助や相談対応に努めている 外国籍の子どもも在園しており、習慣の違いに配慮しながら対応に努めている。特に食習慣の違いから食欲の減退を招かないよう留意しており、成長にとって必要な援助にあたっている。また、保護者に対しても翻訳機を用意するなどわかりやすい説明に努め、誤解や齟齬のないよう取り組んでいる。相互の信頼関係を大切に、何でも園に相談できるよう声をかけるなどの対応を図っている。</p> <p>経験を増やしながらか生きる力を育ていけるよう取り組んでいる 噛みつきなどは子どもの欲求が満たされていないことや対応方法の少なさから生じているとの理解のもと、環境の形成、待つ姿勢などを意識した保育を進めている。保護者に対しても、「自己肯定感を養う」メソッドを推奨し、説明等にあたっている。また、トラブルやリスクなども成長に必要な事項であり、子どもたちの経験を増やしながらか生きる力を育ていけるよう保護者にも伝え、取り組んでいる。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時には健康状態の観察と保護者からの聴取にあたっている 登園時には視診を含め、子どもたちの健康状態の観察と連絡帳等による保護者からの情報収集にあたっている。また、登園時を含み、感染症対策について保護者に留意を促しており、機器を使用するなど対応を図っている。入園のしおりには園への連絡、蔓延防止、治癒時の手続きなどを掲載し、注意喚起に努めている。清掃、消毒についてはコロナ禍前より継続して行っており、子どもたちが過ごす場所として適切な環境の保持に取り組んでいる。</p> <p>使命を意識し、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の習得に取り組んでいる 入園時に用意してもらう事項については、自立と成長を意識し、食事時に使用するエプロンは自身で脱着ができる仕様とするなど保護者への作成を依頼している。子どもたちの人格形成にとって大切な時期に預かる使命を意識し、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の習得に取り組んでいる。連絡帳や送迎時のコミュニケーションを通じて丁寧に説明し、協働して成長への援助ができるよう連携に努めている。</p> <p>定間隔のチェックと記録によりSIDSの予防にあたっている 午睡については、表情や様子を見られるよう明るさを確保し、定間隔のチェックと記録によりSIDSの予防にあたっている。体をよく動かすことで適切な睡眠と休息がとれるよう取り組んでいる。特に0歳児が過ごす部屋には睡眠時の注意事項を掲示するなどなされており、保護者に対しても家庭での睡眠状態について留意を促している。また、午睡時間での訪問・チャイムの使用について玄関への掲示にて配慮を促すなど子どもたちがしっかり休息をとれるよう努めている。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>豊富な玩具を揃え、提供し、好きな遊びに打ち込めるよう環境形成がなされている 子どもたちが好きな遊びに打ち込めるよう豊富な玩具を揃え、提供している。子ども自身の興味や関心を大切に、意欲を育てていく保育を推進しており、限られたスペースを活用しながら様々な芽生えを生んでいけるよう取り組んでいる。保護者会での説明、連絡帳での活動の紹介などを通して園が進める保育への理解が深まるよう取り組んでいる。豊富な玩具を収納するスペースの確保は、課題として認識している。</p> <p>各種計画にねらいを定め、恵まれた環境を活かした戸外活動が楽しまれている 河川敷にすぐに行ける自然に恵まれた環境を活かし、天候が許す限り、毎日戸外活動がなされている。訪れる大小の公園や社会資源は「お散歩マップ」にまとめられ、緊急時避難場所とあわせて保護者に通知されている。成長の基礎として心身の健康をうたっており、体力の向上、自然との触れ合いなど各種計画に定めながら実施がなされている。</p> <p>社会性を身に着ける、自己をコントロールする力を身に着けることを目指している 目指す保育として、社会性を身に着ける、自己をコントロールする力を身に着けることを掲げており、他児との関わりの中でこれらを育てるよう取り組んでいる。推進にあたっては、保育者のリカバリーや援助が肝要であり、スキンシップや体験の共有、子どもとの愛着・信頼関係をもとに進めている。家庭で過ごすような安心感を基盤に様々な活動がなされており、職員には高いスキルを発揮した援助を求めている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>日本の伝統や季節を意識し、子どもたちが興味をもてるよう工夫に努めている</p> <p>行事や活動は子どもの成長を第一に考え、子どもたちが主体となるプログラムとしている。日本の伝統や季節を意識して行われており、子どもたちが興味をもてるよう工夫に努めている。行事計画書は職員の動きや子どもたちの場所など細かく設定され、記録と評価により次年度につなげられている。保育目標と連動し、日々の活動と同様に子どもたちの意欲を大切にしたものとなるよう取り組んでいる。</p> <p>保護者や他児と一緒に祝いをする誕生日会が開催されている</p> <p>基本的な行事は、子どもたちだけの参加としているものの、誕生日会については保護者や他児と一緒に祝いができるよう開催されている。「生まれてきてくれてありがとう」という誕生時の保護者の思いと大切な存在であることを認識できる機会となるよう取り組んでいる。また、園長は冊子等にて行事への思いを発信しており、「行事に追われることなく、子どもたちの気持ちに向き合う保育」を実践していくことを表明している。行事への取り組み方針に本園の理念や思いが特によくあらわれている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>家庭での状況に配慮し、軽食等が提供されている</p> <p>保育時間が長くなる園児もいることから、おやつはおにぎり・お好み焼きなど軽食とも呼べるほどのボリュームあるものが提供されている。家庭での夕食時間や喫食状況を考慮し、子どもや家庭の生活リズムを大切にできるよう配慮に努めている。延長時間においても家庭的な雰囲気を保ちながら保育にあたり、水分補給など体調に気遣いながら援助を進めている。</p> <p>各種想定を持ちながら保育計画立案と家庭との連携が図られている</p> <p>保育時間が長くなる場合、雨天の場合など各種想定を持ちながら保育計画が立てられている。豊富な玩具、少人数のグループによる丁寧な見守り、異年齢が関わる多様な活動がなされている。また、家庭での過ごし方と併せて総合的に子どもたちの生活を考察しており、睡眠時間、動画視聴など一人ひとりに適した生活となるよう保護者との連携に努めている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当	
評価項目6の講評			
<p>それぞれの年齢・月齢において目標をもち、取り組んでいる</p> <p>楽しい雰囲気をつくり、皆で食事の時間を楽しめるよう環境づくりに努めている。それぞれの年齢・月齢において目標をもち、食べる意欲を育てる・基本的な生活習慣を身につける、バランスよくかんで食べるなどに取り組んでいる。また、外国籍の子どもたちが日本の食習慣に慣れていけるよう配慮と援助にあたっている。</p> <p>味覚の幅が狭まることのないよう食育を通して援助に努めている</p> <p>近隣に野菜を買いに行くなど食材について身近に感じてもらえるよう取り組んでいる。また、「えいようのうた」を皆で歌いながら栄養素を学び、食べる意欲を育てよう努めている。子どもたちの好き嫌いは大人がつくりだしていることを考慮し、食べず嫌いにならないよう満遍なく食する習慣を大切にしている。味覚の幅が狭まることのないよう・無理強いすることのないよう・食量だけに着目することのないよう留意しながら進められている。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心をもち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当	
評価項目7の講評			
<p>入園のしおりにて留意事項の説明と注意喚起にあたっている</p> <p>入園のしおりには、感染症について症状・留意事項・防止策を掲載し、登園停止の日数など注意喚起を促している。また、病児・病後児保育の案内を紹介し、ベビーシッターの利用をはじめ病気治療中・回復中の集団生活が難しい場合の保育について説明している。欠席の連絡方法、連絡時間についても記載されており、園運営への協力を依頼している。</p> <p>明るさを確保し、定間隔のチェックと記録によりSIDSの予防にあたっている</p> <p>午睡については、表情や様子を見られるよう明るさを確保し、定間隔のチェックと記録によりSIDSの予防にあたっている。体をよく動かすことで適切な睡眠と休息がとれるよう取り組んでいる。特に0歳児が過ごす部屋には睡眠時の注意事項を掲示するなどがなされており、保護者に対しても家庭での睡眠状態について留意を促している。また、午睡時間での訪問チャイムの使用について玄関への掲示にて配慮を促すなど子どもたちがしっかり休息をとれるよう努めている。</p> <p>健康診断等により子どもの健康状態を把握、通知している</p> <p>健康診断、歯科検診を定期で実施しており、毎月の身体測定とあわせて、子どもたちの健康状態の把握、記録の保管・確認、保護者への通知がなされている。また、法人においては、発達障害研修を実施するなど早期発見・早期療育、子ども達の将来を見据えた支援を展開している。必要に応じて行政の巡回指導を依頼するなどの取り組みもなされている。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>保護者会、面談を通して子どもの成長や運営について説明している 保護者会を年に2回開催しており、日々の保育や子どもたちの成長、運営委員会の内容等を知らせている。また、保護者同士の交流の機会としても活用しており、育児に関する悩みを共有するなどがなされている。また、個人面談も実施しており、食事、生活習慣など課題を有する場合は、園での生活を伝え、協働して子育てを進められるよう援助やアドバイスに努めている。</p> <p>保護者と一緒に誕生日会が開催され、誕生日の喜びを確認している 基本的な行事は、子どもたちだけの参加としているものの、誕生日会については保護者や他児と一緒に祝いができるよう開催されている。「生まれてきてくれてありがとう」という誕生日の保護者の思いと大切な存在であることを認識できる機会となるよう取り組んでいる。また、園長からは冊子等にて行事への思いを発信しており、「行事に追われることなく、子どもたちの気持ちに向き合う保育」を実践していくことを表明している。</p> <p>利用者調査においては園の保育への賛同の声が多く寄せられている 本評価にともなう利用者調査においては園の保育への賛同の声が多く寄せられている。問1:園の活動の成長への役立ち、問3食事への配慮、問4:自然との関わり、問5:柔軟な保育時間と対応、問9行事日程の配慮、問10職員の接遇、問13子どもの気持ちの尊重の各問については「はい」の回答が100%となっている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
<p>ネットワーク・社会資源の利用により子どもたちの経験が広がるよう取り組んでいる 管理職は児童福祉におけるネットワークへの参加、区内小規模保育所連絡会の要職就任、合同の就職フェア開催等を主導するなど地域への貢献を果たしている。また、地域の情報収集ばかりでなく、ホームページやブログでの発信、子育て・育児雑誌の取材への協力・記事の掲載などの活動もなされている。河川敷や児童館などの社会資源を利用し、子どもたちの経験が広がるよう取り組んでいる。</p> <p>就労体験の受け入れなど地域貢献が果たされている 「チャレンジ・ザ・ドリーム」と題した市内中学校の就労体験に協力しており、受け入れ校の増加がなされている。未来を担う人材への協力も地域貢献として捉え、積極的な受け入れに取り組んでいる。また、ネットワークを通じて児童館での催しに参加するなどの活動もなされている。「全体的な計画」においても地域に根差した保育を標榜しており、地域のイベントやお祭りを掲載している。</p>			